

Q 食品ロス削減に関する法律が10月から施行された。宴会時の食べ残しゼロ運動や、チラシ配布、ポスター掲示等のような取り組みが効果的か検討していきたい。

国保の一部負担金に減免制度創設を

Q 医療費の支払いに苦しむ低所得者に対し、一部負担金の減免制度を創設してはどうか。

A 他自治体の状況を参考に研究していきたい。

三条市内とJR燕三条駅周辺への循環バスの運行について

Q 中心市街地活性化のため、燕三条駅周辺から中心市街地を經由し、東三条駅まで深夜帯の循環バスを運行してはどうか。

A 深夜帯の運行は、課題が多く現段階では難しいものと捉えている。

ペイペイ株との包括連携協定について

Q 高齢者の方々へのキャッシュレス決済の浸透方法はどうか。

A 市民向けにセミナーを企画したり、市役所窓口での決済を順次導入

子育て世代包括支援センターについて

Q 国では、産前産後の支援のために、子育て世代包括支援センターの設置を推進しようとしているが、市はどのように考えているのか。

A 子どもの育ちサポートセンターにおいて、同様の支援を行っている。内容は妊娠、出産、子育てに関する相談や情報提供、保健指導などで、個別に保健師や助産師の訪問もしている。

児童生徒の健康管理、体力向上について

Q 食事の際の姿勢の指導はどうか。
A 正しい姿勢で食事をするのが健康増進やマナーの面からも重要、一層の指導に努めたい。

児童生徒の安全確保の取り組みについて

Q SNSの使用に伴うトラブルの防止、ネット犯罪、不審者事案から守る指導はどうか。
A ネットトラブル防止教室を実施、三条市安心安全メール等を活用し情報共有を図り継続的に指導徹底する。

し便利さを実感できる環境を整えていきたい。

Q ペイペイ株と協定を締結した理由は何か。

A 市民向けセミナーの開催や購買データの提供などの支援や、現在手数料が無料のため締結した。メリットが期待できるのならその他の事業者とも協定を締結したい。

Q 市役所窓口での決済にポイント還元はあるのか。

A 経済産業省の還元事業は対象外だが、ペイペイ独自のポイント還元は付与の対象となる。



ペイペイが使える 市役所レストラン

JR燕三条駅1階の産業観光拠点化の進捗状況について

Q 今年10月のJR大型観光企画に合わせた駅1階での観光案内コーナリの進捗はどうか。

Q 登下校時の過度な負担は回避すべきと思うが置き物の状況はどうか。
A 可能な限り持ち物を分散させるなど体重の15%未満を基準として対応指導する。

Q 熊の出没多発に伴い交通安全や防犯の面から可能な限り乗車基準等を緩和し、スクールバスを運行できないものか。
A 冬期間スクールバスを2週間早めて運行した。今後も状況を判断し対応する。

Q 県道森町鹿峠線の通学路における歩道整備について、通学児童の安全確保のため引き続き整備が必要と考えるがどうか。
A 新潟県に対し早期着工に向けた働きかけを継続したい。



飯田小学校付近の県道森町鹿峠線

A JR東日本新潟支社と燕三条工場の祭典実行委員会との折り合いがつかず、10月の企画に合わせたの拠点化には至らなかったが、JR側と調整を図り検討を進める。



JR燕三条駅1階

SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みについて

Q 食品ロスや廃プラスチックの削減など環境問題に取り組んでいることはあるか。
A かんきょう庵における啓発活動、まち美化ボランティアの推進などを通じて環境保全の意識醸成に努めている。

Q 子どもたちへの環境啓発はどうか。

若者の定住支援

Q 移住支援の検証と在住者への支援を問う。
A 直接的な支援もあるが、まちの魅力を磨き上げ、住み続けたいと実感できるまちづくりが肝要と考えている。

Q 今後の支援はどうか。
A 既存の空き家等を活用する補助金の利用をPRする。

害獣対策について

Q 熊の出没が多発している要因と対策について問う。
A ブナやコナラ類が不作で里山に出してきた。里山の緩衝地帯整備は効果があると考えており拡大に向け取り組みを進める。

Q 麻酔銃を撃てる人がいないことの対策はどうか。
A 県に麻酔銃利用が実施可能な機関の設置を求めると。

Q 食品などに有効活用してはどうか。
A 安全性や供給体制などを確認し研究したい。

市との契約に伴う支払いについて

Q 支払いまでの期間を短縮できないのか。

A 小中学校を対象に家庭や学校生活の中で環境にやさしい行動を実践したクラスを認定する、エコクラス認定制度を行っている。



環境情報の発信を担う「かんきょう庵」

子宮頸がんワクチンについて

Q 勧奨中止から6年が経過し、今後のワクチン接種をどのように考えているのか。
A 当事者がワクチンの有効性や副反応について正しく理解した上で、予防接種するか否かの選択を行えるよう、必要な情報を確実に届けることが必要だと考える。今後、接種年齢となる子どもの保護者に対して、個別に通知するなどしていきたい。

A 工事に係る検査書類の簡素化など、品質確保と確認に影響を及ぼさない範囲で検討したい。

イベントなどにおける職員の従事と効果等の検証

Q 多くのイベントが開催されている。効果の検証と見直しについて問う。
A 効果の最大化を図るため随時検証し見直しを行っている。

Q 従事した職員数、また業務への影響について問う。
A 業務に支障がないよう調整し延べ400人程度が従事しており、時間外勤務の増加はない。



三条マルシェに従事する職員